

登壇者紹介



天野秀典
愛知県立時習館高等学校附属中学校校長／豊橋水泳協合理事

豊橋相撲協会副会長
豊橋市内小中学校及び豊橋市教育委員会での勤務を経て、愛知県教育委員会にて3年間、中高一貫校の設立業務に携わる。2026年4月より現職。
「自考自成」と「ウエルビーイング」の実現を目指す時習館高校附属中学校で、「わたしがいります！」、「思いや個性を」出し合う！認め合う！、「まずやってみる！」をキーワードに、「チェンジ・メーカー」となる生徒の育成に向けて奮闘中。



船戸純子
愛知県立時習館高等学校教頭

教員歴27年目。同校に赴任して2年目。愛知県内の高等学校に勤務。学年主任・進路指導主任、豊橋商業高等学校での教頭を経て、現職。「地域の子どもは地域で育てる」をキーワードに、理科教育を通じて地域に還元できるよう奮闘中。
時習館高校は旧吉田藩の藩校（時習館）の名称を受け継ぎ、明治26年私立補習学校として設立。その後、愛知県第四中学校、愛知県豊橋中学校を経て、現在に至る。スーパーサイエンスハイスクール（SSH）、国際交流プログラム等、特色ある教育を展開。



満田康一
学校法人桜丘学園（桜丘中学校・桜丘高等学校）理事長

教員として2年間勤務の後に事務局に異動。2017年から理事兼校長に就任し教育活動を支える。桜丘学園は大正15年に満田樹吉・オリガ夫妻によって創立。建学の精神である「信仰・希望・愛」の理念の下、裁縫塾から女子学校へ発展し多様な学科教育に取り組んできた歴史を持つ。現在では共学の桜丘中学校と桜丘高等学校（普通科と音楽科の2科3コース）があり、在籍生徒数は2095名（2026年4月1日現在）。



森大徳
筑波大学附属駒場中・高等学校教諭・演劇部顧問

開成中学校・高等学校教諭などを経て、2019年より現職。共編書に『中高生のための文章読本』『中高生のための表現読本』『ちくま評論選 三訂版』（いずれも筑摩書房）、共著書に『学校教育におけるマンガの可能性を探る』（早稲田教育ブックスレット）がある。高校国語教科書編集委員も務める。演劇部ではドラマトウルクとして集団創作を支援し、開成高校時代に含めて都大会に7回、関東大会に3回出場。



吉川剛史
穂の国とよはし芸術劇場PLAT 事業制作部

社会人を経て、座・高円寺「劇場創造アカデミー」に入社。社会と演劇、地域と劇場の関係性を考え制作や劇場運営について学び、2013年より愛知県豊橋市の公共劇場・穂の国とよはし芸術劇場PLATで勤務。「大道芸inとよはし」「ワークショップ」「プラットが学校へ。」「市民と創造する演劇」「舞台手話通訳付き公演」「楽屋」「視覚・聴覚に障がいのある対象のPLAT劇場ツアー」などを担当。



柏木陽
NPO法人演劇百貨店代表・演劇家

劇作家演出家の故如月小春の元で演劇活動を始める。その後如月小春の急逝に伴ってワークショップを通じて演劇をやることを始める。2003年子どもと一緒に演劇をやることを目的としてNPO法人演劇百貨店を設立。以来全国様々な場所で行うワークショップの活動をを行う。世田谷区内の中学校の演劇部2校に毎年台本を提供している。都立高校の演劇部ではディバイジングの手法を使ったドキュメンタリー演劇を作り続けた。連続全国大会へと駒を進めた。



松岡一夫
桜丘高等学校教諭（特別講師）・演劇部顧問

名古屋出身、学生時代よりミュージカルサークルを主宰。愛知県高校生フェスティバルの顧問として数々のミュージカルを上演。三十年にわたり桜丘高校演劇部を指導し、中部大会に3回導く。同部では毎年多様なテーマを題材に演劇を制作・上演。奥三河のダムに沈む村、街を走る市電の情景、阪神淡路大震災ボランティアを今も続ける生徒たち、豊橋妖怪百物語、戦争の傷跡を語り継ぐため豊川海軍工廠を題材にした「ハイネさん」など。



内浦有美
株式会社うらばち（ばつた）理事長／総合郷土研究所 研究員

豊橋市出身。人材・広告企業に勤務後、2007年に独立。人材育成・キャリア教育・地域活性化の調査研究や事業運営を主とし、地域での人づくりや魅力発信に取り組み。リクルートワークス研究所客員研究員として論文「キャリア教育の評価」（2008年）上梓、『豊橋妖怪百物語』（豊川堂・2014年）発行、他、豊橋市教育委員、愛知大学短期大学部非常勤講師「家族社会学」「子どもの環境と教育」等。